

社説

小銀行の合併と望む

一昨年米物騰貴の爲めに銀行の準備金は動もすれば減少の傾向を呈するを以て市中の諸銀行は頻りに利子を引上げて預金の吸収に着手したれども今日までの経過を見れば引上げの結果は単に一銀行の預金を他に移したるに過ぎず更に一步を進めて中流以下の社会に貯蓄を奨励し此輩より大に資金を吸収して銀行全體に貸付けの實力を豊にするなどの効能を見る能はざるが如し元來銀行の預金は利子の歩合如何のみに依り増減するものに非ず銀行が世間に信用の厚さ否とは預金の吸収に非ず常の關係あるものにして小銀行が如何に利子を引上げたればとて容易に預金を増す能はざる其反対に大銀行が利子を動かさずして巧に他より吸收するを得るより見るも此輩の事實は甚だ明白なれば銀行にして其に吸収の目的を達せんとすれば先づ他と合併して大銀行を成し支店制度の仕組に依り營業を擴張して世間の信用を収むる工夫を肝要の手段と云ふ可ければ即ち今日の如く只日本銀行のみに依りて資金の融通を謀り多少の利益を収めて餘り流の營業に甘んずるべきの弊を去り小銀行をして預金の吸収に依りて自家の獨立を謀るに至らしむる道にして銀行本來の性質より見て至當の處置なるのみならず小銀行が經濟社會の前途に處して安全の保障を爲したるならば是非とも斯る手段に依りて營業の基礎を鞏固するの必要あり其次如何に如何と尋ねるに戰後小銀行が諸地方に設立せられて營業上に著しき競争あるにも拘はらず夫れ々々相應の利益を収めて特別困難の模様なきは全く世間に新事業の勃興を促して資金の需要を増したるが爲めに外ならず日本銀行が貸付け日歩を引上げるに依りて市中の諸銀行も同様の引上げを試みて充分の差益を取ら得たるは要するに資金需要の増加したる證據にして一昨年来の如く銀行が思ふ存分、金利を引上げて尙ほ貸出しの増加を見るなどの場合に意外の繁昌を極めたるは當然の事として怪しむに足らず今日に至るまで既に預金利子を引上げんとするものも余く永く斯る繁昌を見る可しとの考に出づるが如くなれば昨今の如く預金既に下落の傾向を呈して今後預金回収の減少すると共に一其下落を促さんとする以上は諸事業の進行を妨げて資金の需要を減するは必然の勢に非ず此場合に市中の諸銀行は金利を引下げて其營業を擴張し大に資金の融通を謀るの餘裕なきは日本銀行が金網を引下げて貸出しの増加は手裏に握りて來る物價騰貴の際に於けるが如く一方より低利にて借りたる資金を他に高利に貸すなど

の筆法にて利益を收め難きは勿論、商賣工業を營む者の方より見るとは物價の下落に連れて所有の商品は次第に賣價を失ふを以て更に仕入れの都合に銀行より預金を引出し資金の不足を補ふは實際に已むを得ざる可ければ合併し銀行が如何に利子を引上げたれば預金の吸収は甚だ困難にして大に其取付けに據するの危険あるのみならず一旦預金を約して受け入れたる預金には貸出しの増進に拘はらず約束の利子を仕拂ふの困難あり不景氣の場合に小銀行が營業上に不如意を併せて意外の破綻を被むるは全く右の事情に出づるものにして殊に昨今の如く銀行所有の公債株式の價格にして恢復せざる時は銀行は財源の一部を失ひたると同様の損害を免かれざる可し世間の信用を厚くして如何なる困難に當りても自から之に處するの成算あれば兎も角も小銀行の如く基礎の薄弱なるものは自家の利害を考へ効能の甚だなき利子の引上げに依りて預金を増さんなど危殆の策略を思ひ止まり大に覺悟して他と合併し世間の信用を増して眞に資金吸収の目的を達す可きのみ我輩の勧告する所なり

米國運送船到着の公報

マニラに於ける我輩友は電報案を香港の本社特派員に移し別項の通り香港より米國第二次運送船の到着したることを報じ越したるが海軍省にても一昨二十一日に於て香港より左の如き公報を受けたりといふ

日本人の避難と

米國第二運送船、着して總攻撃將に初らんとするの模ありを以てマニラ在留の日本人は難を運送津浦兩線に避くべき旨、先任艦長より命令を發したるよし

マニラの病船離港

マニラに上陸せる米兵の疾病に罹るもの多きを以て日本赤十字社の手を煩はして之が救護を行はしめんとするの說は過日のジャパンメーブルに見え我一年前にも在任生の投資ありし近郊のサンフランシスコ船場に據ればマニラの米兵は卒先して有志家を説き廻り

獨逸の野心

マニラに於ける獨逸軍艦の擧動を以て其の見るは屢々本紙に見えしが倫敦のデイリーニュース新聞によれば初めデュークロー将軍がマニラを砲撃せんとせし時最も頑固なる抗議を提出したるは新着の獨逸海軍にして之が爲め米國は一昨午砲を發射せたるが領事館の抗議は全く獨逸軍艦の命を受けしものなりと云ひ又タイムズの伯林通信員の記事に獨逸新聞は獨逸は若し同艦の米に歸する如きもの意見にて若し同艦の米に歸する如きもの意見を備へて非難攻撃を加ふるや疑ひなし獨逸政治家中にはフョロツピンを以て各國の分割に任するは勿論必し米國の領有には斷じて歸せしむる能はずと公言するもの多し蓋し獨逸は膠州灣の味を忘れ兼ねフョロツピンを於て亦同様の利を獲まんとするものなるべし云々

米兵のサンチアゴ上陸

米國軍隊は殆ど抵抗を受くる事なくしてサンチアゴ附近に上陸したりと其項の電報に見えたる所なりしが右は米國艦隊の牽制運動巧に其功を奏したるものにて米國は其上陸を企て、カスチーン、スウェーニー、ウッスブ號をして上陸點附近を砲撃せしめサムプソン將軍の艦隊は等らカバナスに牽制運動を試み然れども米兵の上陸點は必定此處と西班牙は主として其方面を固めたるに米兵は其際を除きパイキールに上陸し海上よりは盛にサンチアゴ、パイキール間を砲撃して西班牙の援兵を送るを交へたり斯れば上陸中米兵の戦死したるものは僅に二名に過ぎざりしと云へり

キューバの不健康

昨降雨季に及びたるを以て來る九月頃まで米國はキューバ島及びフョロツピン群島の作戰を休止する由なるが米國の降雨季を恐るれば無理にもあらず昨年中央米國海軍各艦部の命を奉じて一年間同様に滞留の末綿密に調査し來りたる艦官フランナード氏の報告には千八百九十七年中同地に於て黄熱病の爲めに死亡したる西班牙兵六千三百四十人、タイフオイド熱にて死せるもの二千五百人、腸炎、傷寒熱にて死せるもの一萬二千八百人、マラリア熱七千人、餘病五千八百人、合計三萬二千五百三十四人なるを示せり

メリマックの沈没

米國のホブソン大尉がサンチアゴ港口に石炭船を沈めて西班牙艦隊の走路を絶ちたるは其武勇無双として激賞されたるが此程も一寸記したる如く右は充分其港口を杜ぐの用を爲す少しく右に傾り過ぎたる由にて、取柄上は正しく失敗と評するべきものなりと云ふ左れば西班牙艦隊も其危急に臨みては彼の如く逸出するを得たるなれ

西班牙新軍艦購入す

六月二十六日倫敦に達したる報によれば西班牙政府は九千噸、七千五百噸、四千二百三十噸の排水量と有する三隻の軍艦速力各々二十五哩なるを購入し之を第三艦隊を編成し西班牙海岸及びカナリヤ諸島の防備に當つる筈にて三週間以内に其買入手續を了する都合なりといへば今頃は此新艦隊の出来上りたる頃なるべきか

高砂艦

回航中の高砂艦は二十日の夜を以て新嘉坡に着したる旨、昨日海軍省へ電報ありたり

勅使参向

北見立郡の永川神社例祭に参向すべき勅使は昨日、左の通り仰付けられたり

小松元帥宮

福井、石川、富山の三縣を旅行せられたる小松宮憲仁親王殿下は一昨二十一日歸京せられたり

故北白川宮能仁親王の妃

富子殿下は一昨二十一日出發、神奈川縣下三浦郡葉山地方へ旅行せられたり

式部次長の後任

徳川篤敬侯死去せられたるに付き式部次長の後任は其筋に於て入選中のよしなるが仰も式部次長の職たる式部長を補けて宮中の典範を導るのみか常に各國の使臣と交際するの要地に立つものなれば資望兼にして上下内外の名望を荷ふに足り得るを要するは自らも未だもなし故徳川侯は式部次長として最も適任なりしが其後任者も或るべく由緒ある有徳家を選用せんものとて當局者は餘程苦心選擇中なり多分兩三日の中には何とか決定するならんといふ

宮内省の賜暇

宮内省にては判任官以下に限り昨日より聯合休暇を賜るものとしたりたり奏任官以上も近日より賜暇あるべしと云ふ

奥田義人氏

前農商務次官奥田義人氏は不日歐米漫遊の途に上る由にて氏の郷友加藤正義、神守岡岸本屋、尾立正繁等の諸氏發起となり明日午後三時より上野精養軒に於て送別會を催すよし

學術探検

前後二回臺灣に渡りて同島東海岸の生草及び紅頭嶼の土人を研究したる鳥居龍藏氏は今年また、理科大學の嘱託に依り來月早々渡航して牡丹社より南緯の邊を巡行し土著の體格調査を主として傍ら土俗を研究する筈なりといふ

一筆申

林逋信大臣は、夫人、同、私共此程信州長官、驛路即ち高懸送せ、車中に手洗、ありて都台より相、移るが異期勿、僅に乘るものと、け更に無之、止りては、名狀致し難く、戸の失せたる不、感此上なし、行先まで幸、が爲め嘔吐頭痛、之候よし甚だ不、信若し瀋陽の、にすまじ居り候、のチャキ、多年の宿、するの御慰、件作向きは善、内外信、く牢屋にも御、に固定したる分、罪なき、にて一日も速、冥明なるべく、候補官

甲武鐵道

甲武鐵道大久保駅、其間ハハ、相成らざる御、の御知らせも、の多く有之候、るは鐵道會社、然候

通信大臣

通信大臣林有造、電話交換局の技、通話の取次ぎ、語を以てサツ、とも思はず實に、は時々手を廻、はドン、御所、東京府民知、一覽を、承れば、嫌の設けあり